

「並列・添加」を表す接続詞のジャンル別分析 —雑誌を題材として—

チョンペンスクラート、タッサワン

はじめに

接続詞は順接、逆接、転換、添加、条件、理由など様々な機能によって分類されている。本稿では、この中から、「並列・添加」の接続詞をとりあげる。

同じ「並列・添加」の接続詞でも置き換えられることができる場合とできない場合がある。話し手がどのようなニュアンス、どのような場面で伝えるかということが接続表現の選択に大きくかかわってくる。また、表現の選択には文体的要因がかかわる場合がある。田中（1984）は、接続表現に関する重要な認識の一つとして、個々の表現形式がどのような場面と文体に用いられるかという点をあげている。文体・ジャンルによって、接続詞の運用が異なるため、それぞれの使用頻度を確実に調べる必要があると考えられる。本研究は、ジャンル別の雑誌を中心に、「並列・添加」の接続詞の実態調査を行った。

I. 「並列・添加」の接続詞

1. 「並列」と「添加」という接続関係

「並列・添加」とはどのような関係なのかを調べる必要がある。『日本語教育事典』（1982）では「並列成分」について次のように述べられている。

「並列成分」は「接続成分」の一部で、後続の成分と、対等の関係で結び付く成分である。その並列の在り方によって、付加的な関係、並列的な関係、例示的な関係、選択的な関係などに分けることができる。

また、継起的関係をも「並列成分」とする説もある。

(『日本語教育事典』1982：180)

つまり、「並列」という意味関係は「並列的な関係」「付加的な関係」「例示的な関係」「継起的な関係」「選択的な関係」などをもつと考えられる。

さらに、『新版日本語教育事典』(2005)は「並列」を表す接続形式には以下のように「～テ形」、「～タリ」、「～シ」の3形式があると紹介している。

(1) 「～テ形」による並列は事柄のすべてを列挙する。

(37) その果物は、丸くて、重くて、中が赤い。

(38) 明日は、洗濯をして、掃除をして、買い物をする。

この並べ方は名詞の並列でいえば「AトBト…」という並べ方と同じである。

(2) 「～タリ～タリ」一部を例示的に並べ挙げる言い方

(39) 洗濯をしたり、掃除をしたり、買い物をしたりする。

この並べ方は名詞の並列でいえば「AヤBヤ…」という並べ方と同じである。

(3) 「～シ」同類のことがらを累加的に並べる形式

(40) 洗濯もするし、掃除もするし、買い物もする。

この並べ方は名詞の並列でいえば「AモBモ…」という並べ方と同じである。この並べ方は意味関係からみると、「AだけではなくBも」、「AであってしかもBである」と解釈することが考えられる。

(『新版日本語教育事典』2005：174)

「並列」は、「付加的な関係」、「並列的な関係」、「例示的な関係」、「選択的な関

係]、「継起的関係」などを表す。「並列」の形式では、(1) と (2) のような「対等的並列」と (3) のような「累加的並列」が両方存在することがうかがえる。本稿では (1) と (2) のような意味関係は「並列」、(3) のような意味関係は「添加」と呼ぶ。何かを対等的、例示的、或いは、順序的に列挙することは「並列」で、前項に加えてさらに何らかのものを付け加えることは「添加」である。その「並列」或いは「添加」の機能をもつ接続詞は本稿の調査の対象とする。「あるいは」、「または」なども並列の意味をもつ接続詞であると考えられるが、事柄を対等的に列挙したり、付け加えて述べたりする機能ではなく、選択を表す機能をもつため、調査対象外とした。

2. 先行研究による接続詞の分類

2.1. 佐治 (1970) による分類

佐治 (1970) は用法と意味によって接続詞を分類し、いかなる文法上の性質をもった前項と後項とを結びつけるのかという点を「用法」と呼び、両項をいかなる関係で結びつけるのかという点を「意味」と呼んでいる。用法については、文中の項を結び合わせる「文の内がわの接続詞」と、文 (段落も) を結び合わせる「文の外がわの接続詞」とに分けている⁽¹⁾。佐治の「意味」の分類によれば、「並列・添加」の接続詞は以下のようなものである。

「並立」(共存)

ならびに、および、また、そして

「列叙」(添加)

そして、おまけに、しかも、また、そのうえ、それから、それに、
なお、かつ、しこうして、しかのみならず⁽²⁾、ついで、で

佐治 (1970) は前項と後項を共存的に並べ立てるものを「並立の接続詞」と

呼び、前項の事柄の叙述と同じ方向で事柄を並べ表すものを「列叙の接続詞」と名づけた。「列叙の接続詞」は意味上から「添加の接続詞」と呼ぶこともできると述べている。佐治（1970）は下記のような例を挙げている。

並立（共存）

- (1) 山また山を越えて行く。 (佐治1970：33)
- (2) 京都・大阪および神戸を総称して、京阪神という。
(佐治1970：33)
- (3) 東から、西から、そして、南から、北から、集まってきた人々。
(佐治1970：34)
- (4) 卒業生の皆さん。ならびに御父兄の皆さん。 (佐治1970：35)
- (5) 水泳をしたり、そして、釣をしたりする。 (佐治1970：34)
- (6) そこでは水泳ができる。釣りができる。また、登山もできる。
(佐治1970：36)

列叙（添加）

- (6) ジャングルに続くジャングル。そしてすべてを包み込む雨……
(佐治1970：36)
- (7) おもしろくて、おまけにためになる絵本。 (佐治1970：34)
- (8) そばまで行って、しかもゆっくり見ることができた。
(佐治1970：34)
- (9) そこは静かで、そのうえ空気が美しかった。 (佐治1970：34)
- (10) 必要にして、かつ十分な条件をそなえている。
(佐治1970：34)

佐治（1970）によれば、「そして」と「また」は「並立」と「添加」の意味を両方持っていると考えられる。

2.2. 市川（1978）による分類

市川（1978）は接続語句の文の接続関係に注目して接続詞を分類した。市川案では接続詞をA「論理的結合関係」、B「多角的連続」、C「拡充的合成関係」の3類に分けている。B類は、さらに「添加型」、「対比型」、「転換型」の接続類型に分けられる。「添加型」は以下のように下位区分されている。

「添加型」

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ① 累加（単純な添加） | そして、そうして |
| ② 序列 | ついで、つぎに |
| ③ 追加 | それから、そのうえ、それに、さらに、しかも |
| ④ 並列 | また、と同時に |
| ⑤ 継起 | そのとき、そこへ、次の瞬間 |

2.3. 『日本語教育事典 縮刷版』（1982）による分類

『日本語教育事典 縮刷版』（1982）では、意味上から「並列」、「累加」、「選択」、「順接」、「逆接」、「説明」、「補足」、「転換」に分類されている。「並列」と「累加」の接続詞は以下のとおりである。

- | | |
|------|-----------------------|
| 「並列」 | そして、および、かつ、ならびに、それから等 |
| 「累加」 | また、それに、そのうえ、しかも等 |

以上の分類は便宜的なもので、定説はないと述べられている。例えば、「それから」は「並列」にも「累加」にも用いられ、二つの意味もっている。

2.4. 田中（1984）による分類

田中（1984）は「接続表現」の文体的・場面的な使用領域の差異をとらえようとしながら、接続詞の機能と用法を紹介した。田中（1984）は、文や語句の

結び付き方の面から、「対等の接続」、「承前の接続」、「転換の接続」の三種に分けることができると述べている。さらに「対等の接続」を「列挙」、「累加」、「選択」、「同一」に詳細に分類している。「列挙」と「累加」の接続詞は以下のとおりである。(田中 1984 : 122)

表1 田中(1984)の分類

	うちとけた ← 普通 →		かたい	
	会話的	話しことば的	一般	書きことば的 文語的
列挙	(ダノ)	(ヤ)	(ト)	オヨビ ナラビニ
累加		ソレカラ ソレニ	(ニ) ソノウエ シカモ	ソシテ マタ サラニ クワウルニ アマツサエ カツ

田中(1984)によれば、接続表現は以下のように文体と場面によってさまざまに変容するとされている。(田中 1984 : 90)

- (11) 地震ト雷ト火事ト親爺
- (12) 地震ニ雷ニ火事ニ親爺
- (13) 地震オヨビ雷ナラビニ火事モシクハ親爺

(11)は現代の標準的な言い方、(12)はややくだけた話しことば的な感じ、(13)は法律か論文のようなものに使われ重々しいニュアンスがあると述べている。

また、田中(1984)は以下のような例を挙げている。(田中1984 : 91)

- (14) よく遊んで、よく学べ

(15) よく遊び、ソシテよく学べ

(16) よく遊び、カツよく学べ

(14) は話しことば的で、(15) は口語の普通の文体、(16) は文語的な言い方であると述べている。

また、田中 (1984) によれば、「そして」「また」「さらに」による並立は書きことば的であり、うちとけた会話などには、あまり出て来ないとされている。それに比べて、「そのうえ」は使われる場面が広く、話しことばにも書きことばにも現れる。日常会話や普通の文章には「それから」「それに」による列挙がよくみられ、一方、法令文や学术论文などの硬い文章には「かつ」がよく用いられる。また、「しかも」は話しことばにも書きことばにも比較的広く用いられるが、やや硬い言い方であると述べている。田中 (1984) は下記の例を挙げている。(田中1984 : 94-96)

(17) バタフライ・自由型ソシテ背泳の三種目で優勝した。

(18) 北京・上海マタ南京・広州の各都市で好評を得た。

(19) 数学・国語サラニ英語のすべてで平均に達しなかった。

(20) バナナ・りんごソレカラみかんもあった。

(21) 会費と申込書ソレニはんこも必要です。

(22) 知能にすぐれ、カツ体力にまさる壮丁をもって組織する。

(23) まっ暗で、シカモ人っ子一人通らない道だった。

「そして」と「それから」は累加を示すほか、継起的に起こる出来事を接続することができる。しかし、田中 (1984) は「それから」による接続は、「そして」に比べると、かなりくだけた言い方であると述べている。

(24) バスで港に行った。ソシテ遊覧船に乗った。 (田中1984 : 101)

(25) 手紙を書いて、風呂に入ってソレカラ寝た。 (田中1984：102)

また、「そして」は(26)のように同時進行の事象と、さらに、(27)のように必然的な現象を接続するときに用いられる。田中(1984)は、(26)の用法は同時進行の現象であるが、並列関係に近いと述べている。

(26) 右手に傘を持ち、そして、左手にカバンをさげていた。
(田中1984：101)

(27) 道が暗くて、そして何も見えなかった。 (田中1984：102)

2.5. 庵他(2001)による分類

庵他(2001)は機能によって接続詞の分類をしている。庵他(2001)によると、「並列・添加」の接続詞は複数のものや事柄を並列的に述べるときや、付け加えて述べるときに用いられるものであるという。庵他(2001)は下記のような「並列・添加」の接続詞の例を挙げている。(庵他2001：462)

「並列・添加」 そして、それから、それに、また、そのうえ、しかも、
おまけに、さらに、そればかりか、そればかりでなく、
のみならず、それどころか、および、ならびに、かつ

庵他(2001)は「並列・添加」の接続詞の中で、言い換え可能な例を以下のように挙げている。(庵他2001：473)

- (28) 代表は森本、松田、{そして/それから/それに}木山の3人だ。
(29) 和美さんは美人でスタイルがいい。{そして/それから/それに}おしゃれに敏感だ。
(30) 連絡は以上です。…あ、{○それから/?そして/?それに}、次の

会合は火曜日に行いますので、よろしく。

庵他(2001)は、(30)のような会話で言い忘れたことを後から付け加える場合は「それから」が自然であると述べている。

また、(29)は「そのうえ」、「しかも」、「おまけに」、「さらに」に言い換えられるが、「～だけでなく～も」という強調的な感情を込めて付け加える場合に使われると述べている。

文体差については、庵他(2001)は、「また」はやや硬い表現であるが、話しことばでも用いられていると述べている。「そればかりか」と「そればかりでなく」は話しことばでも使えるが、ややかたい表現である。また、「のみならず」はほぼ書きことばにのみ使われると述べている。

(31) この県は農業が盛んだ。また、地下資源も豊富である。

(庵他2001:473)

(32) その通行人は、気分が悪くなった私をタクシーに乗せ、そればかりか病院までつきそってくれました。(庵他2001:474)

(33) 科学の発展は自然を破壊した。のみならず科学は人類を一瞬にして破滅させる可能性をはらんでいる。(庵他2001:474)

また、「および」、「ならびに」「かつ」は改まった硬い表現であるが、「かつ」は話しことばでも用いられると述べている。(庵他2001:475)

(34) 日本は本州、北海道、九州、四国および多くの島々からなる。

(35) 先生方ならびにご来賓の方々に心からお礼申し上げます。

(36) 香山さんは優秀な医者でかつ研究者でもある。

上述したとおり、接続詞の分類とその呼称は一つではない。それぞれの呼び方

を下記の表にまとめた。

表2 各先行研究の呼称

	呼び方
佐治 (1970)	並立、添加
市川 (1978)	添加型
『日本語教育事典縮刷版』 (1982)	並列、累加
田中 (1984)	並立 (列挙・累加)
庵他 (2001)	並列・添加

佐治 (1970) は、詳細に分類し「並立の接続詞」と「添加の接続詞」とに分けている。他方、市川 (1978)、田中 (1984) は広義に分類し、前者は「添加型」、後者は「並立の接続詞」と呼んでいる。田中 (1984) はさらに詳細に「列挙」と「累加」に分けている。

各説の「並列 (並立)」と「添加 (累加)」の意味の範囲にはまだ曖昧な部分があり、また、「そして」、「また」、「それから」のように「並列」と「添加」の意味を両方持っている表現もあるため、「並列の接続詞」か「添加の接続詞」かのどちらか一方で呼ぶのは適切ではないと考えられる。

庵他 (2001) は広義と狭義を考えず、接続詞の機能によって分類し、複数のものや事柄を並列的に述べたり、付け加えたりして述べるときに用いられる接続詞を「並列・添加の接続詞」と呼んでいる。日本語教育の観点から見ると、庵他 (2001) の分類は分かりやすく、そして見てすぐ理解できるような呼び方である。また、「そして」「また」「それから」のように「並列」と「添加」の意味を両方持っている接続表現もあるので、本研究では、庵他 (2001) のように、機能によって「並列・添加」の接続詞と呼ぶ。

先行研究による接続詞の分類を参考にし、何かを対等的、或いは、継起・順序的に列挙する「並列」と、前項に加えてさらに何らかのものを付け加える「添加」の機能をもつ接続詞を調べる。対象は以下のような表現である。

「並列・添加」の接続詞の例

そ（う）して、それから、それに、また、そのうえ、しかも、おまけに、さらに、そればかりか、そればかりでなく、のみならず、それどころか、および、ならびに、かつ、つぎに、ついで、最後になど

II. 文体・ジャンルによる接続詞の使用についての研究

文体差については、田中（1984）によれば、「そして」「また」「さらに」は書きことば的であり、うちとけた会話などにはあまり用いられないとされている。「そのうえ」は使われる場面が広く、話しことばにも書きことばにも現れる。日常会話や普通の文章には「それから」「それに」による列挙がよくみられ、一方、法令文や学術論文などの硬い文章には「かつ」がよく用いられる。また、「しかも」は話しことばにも書きことばにも比較的広く用いられるが、やや硬い言い方であると述べている。

また、庵他（2001）は、「また」はやや硬い表現であるが、話しことばでも用いられていると述べている。「そればかりか」と「そればかりでなく」は話しことばでも使えるが、ややかたい表現である。「のみならず」はほぼ書きことばにのみ使われると述べている。また、「および」、「ならびに」「かつ」は改まった硬い表現であるが、「かつ」は話しことばでも用いられると述べている。

上記の先行研究では、「書きことば的」「やや硬い表現」「改まった硬い表現」などの表現で説明されている。しかし、「かつ」を除いて、どのような文体によく使われているかについては述べられていない。文体による接続詞の使用については、吉田（1987）、中田（1989）、安藤（2002）により、媒体による接続詞の使用実態の調査が行われた。

1. 吉田（1987）の研究

吉田（1987）は国語教科書の接続語について、小学校教科書に限定して考察

した。吉田（1987）は甲斐睦朗編の小学校教科書B社版全12冊による『小学校国語教科書の学習語彙表とその指導』を参考にし、それぞれの語について、初出の学年、各学年ごとの出現回数、全6学年を通じての出現総数などを紹介している。表3は吉田（1987）の「出現した接続詞」から「並列・添加」の接続詞を抽出し、出現総数の高い順にまとめたものである。

表3 小学校国語教科書からみた接続詞

	1年～6年の出現総数
そして	238
また	120
それから	67
それに	24
そうして	22
しかも	11
そのうえ	9
それどころか	2
および	1

全学年を通じての出現総数が3未満のものは「それどころか」と「および」である。吉田（1987）はこれらの接続詞が、小学校教科書において多く用いられない理由は意味用法上、または文体上、小学校段階の接続詞としてはやや難しいものと判断されるからであると述べている。初出の学年からみると、「それどころか」は3年下に、「および」は6年上のようにやや高い学年で初出することが分かった。

さらに、吉田（1987）は教育技術研究所編『資料国語教科書文例（小学校編）』を通して、1年～6年までそれぞれ上下2冊ずつの計12冊、5社分総計60冊の小学校国語教科書の文例から「接続詞を含む文」を調べた。53,000文のうち、「接続詞を含む文」の量は5社の教科書すべて合わせて3,721文となり、その割合は約7%である。吉田（1987）は国立国語研究所の『談話の実態』による日常会

話における接続詞の割合の3.8%と比べると、国語教科書の文章では「接続詞を含む文」の割合がかなり高く、また、「接続詞を含む文」が学年段階を追うごとに増加している傾向が見られると述べている。

また、吉田（1987）の小学校国語教科書における調査では、「並列・添加」の中で「ならびに」と「かつ」の出現が見られなかった。

2. 中田（1989）の研究

中田（1989）は、国立国語研究所の『語彙調査—現代新聞用語の一例—』と国立国語研究所日本語教育センターの『日本人の知識階層における話しことばの実態—語彙表—』を通して、新聞語彙と日常談話語彙の接続詞を比較した。中田（1989）は新聞に用いられた接続詞の高頻度上位25語が日常談話でどのような順位になっているかを調べ、その順位差を表にした。表4は中田（1989）の表から「並列・添加」の接続詞を抽出し、新聞による使用頻度の高い順から以下のようにまとめたものである。

表4 新聞語彙と日常談話語彙の接続詞の比較（頻度と順位）

	新聞語彙頻度 (順位)	日常談話語彙頻度 (順位)
また	527 (1)	100 (7)
および	334 (3)	0
さらに	254 (4)	9 (28)
そして	76 (8)	48 (12)
ならびに	66 (9)	0
しかも	56 (11)	3 (39)
かつ	31 (16)	0

さらに、中田（1989）は小学校1年～6年までの国語教科書に現れた接続詞の分析を通し、言語的性差を分析した。中田（1989）は資料を大きくA.「書きことば」とB.「話しことば」に分けた。書きことばはさらに①「説明文」②「物語

文」③「作文」に分けられている。「説明文」は論説、評論、伝記、まとめの学習など、「物語文」は物語と詩、「作文」は男子あるいは女子が書いたと認められる作文、日記などである。話しことばとは上記文章中にあらわれた会話文である。

表5は中田（1989）の「国語教科書における接続詞の使用」の表から「並列・添加」の接続詞を抽出し、まとめたものである。

表5 小学校国語教科書からみた接続詞の出現回数

	説明文	物語文	作文	会話文
そして	372	313	56	21
そうして	23	14	1	3
それから	30	94	14	22
ついで	1	—	1	—
そのうえに	1	—	—	—
そのうえ	18	6	—	2
それに	19	20	4	17
それとともに	1	1	—	—
さらに	23	2	3	—
しかも	27	7	—	2
それも	5	9	1	3
また	463	38	46	2
および	4	—	—	—

中田（1989）の調査結果によると、よく用いられるのは「そして」と「また」である。分母となる話しことばと書きことばの資料の分量が同じかどうか判断不可能であるため、中田（1989）の調査の結果で、「そして」と「また」は話しことばより書きことばによく使われるとは言えないが、少なくとも同じ書きことばでは「また」より「そして」の方が文体による使用範囲が広いと考えられる。また、「それから」と「それに」も書きことばにも話しことばにもよく使われ文体

による使用範囲が広いことが分かった。

3. 安藤（2002）の研究

安藤（2002）は59編の文系論文を通して、日本人が論文作成時に使用する接続詞についての調査を行い、指導が必要な接続詞とその指導方法について考察した。また、安藤（2002）は調査論文の中で使用頻度10以上の上位25語の接続詞を紹介した。文系論文59編の内、使用頻度が一番高いのは「また」である。その次は「しかし」「たとえば」「つまり」「そして」「すなわち」「さらに」などの順である。

表6は安藤（2002）の「論文59編中に使用された接続詞上位25語」から「並列・添加」の接続詞を抽出し、まとめたものである。

表6 安藤（2002）による文系論文中的使用頻度

	使用頻度
また	526
そして	148
さらに	132
および	38
しかも	19
かつ	16

安藤（2002）の調査から、「また」は文系論文に多く使われていることが分かった。

4. まとめ

以下は、先行研究の調査結果による各ジャンル・文体に現れる接続詞を頻度の高い順にまとめたものである。

表7 頻度の高い順による各ジャンル・文体に現れている接続詞

小国語教科書	新聞	説明文	物語文	作文	文系論文
そして	また	また	そして	そして	また
また	および	そして	それから	また	そして
それから	さらに	それから	また	それから	さらに
それに	そして	しかも	それに	それに	および
そうして	ならびに	そうして	そうして	さらに	しかも
しかも	しかも	さらに	それも	そうして	かつ
そのうえ	かつ	それに	しかも	ついで	
それどころか		そのうえ	そのうえ	それも	
および		それも	さらに		
		および	それとともに		
		ついで			
		そのうえに			
		それとともに			

表7をみると、新聞を除いて、どのジャンル・文体でも「そして」と「また」は上位3語の中に入っている。「そして」と「また」はどちらも書きことばによく使われていると考えられる。また、中田（1989）の日常談話に現れる接続詞の調査結果でも「また」の順位が7位である。つまり「また」は書きことばにも話しことばにもよく使われると考えられる。

また、新聞と文系論文に現れる接続詞はよく似ている。硬い表現が多く用される新聞・論文のようなジャンルには「また」「そして」「さらに」「および」「しかも」「かつ」がよく使われることが分かった。改まった場面には使われない「それから」と「それに」は新聞と論文にあまりあらわれないが、小学校教科書、説明文、物語文、作文によく用いられている。

III. ジャンル別の使用頻度の調査

田中（1984）は、接続表現の重要な認識の一つとして、個々の表現形式がどのような場面と文体に用いられるかという点をあげている。また、庵他（2001）

も接続詞の運用には文体差があると述べている。文体・ジャンルによって、接続詞の運用が異なるため、それぞれの使用頻度を確実に調べる必要があると考えられる。

吉田（1987）、中田（1989）、安藤（2002）の文体・ジャンル別の接続詞の調査で書きことばと話しことばによく使われる接続詞の傾向が見られた。ところが、様々なタイプの書きことばにおける接続詞の使用についての調査はまだ不十分である。同じ書きことばの中でも、感想文、叙事文、写生文、説明文など文体によって接続詞の運用にはかなり違いが見られる。また、書きことばには新聞、雑誌、論文、小説、手紙などの媒体がある。新聞、論文、国語教科書を通して、接続詞の使用の実態調査が行われたが、雑誌という媒体を対象とした調査はまだない。雑誌は特定の読者を想定して作られたものであるため、様々な種類がある。そのジャンルによって表現の仕方やことばづかいに差がみられる。従って、様々なジャンルの雑誌によって接続詞の運用に差異がみられると仮定できる。本研究は、いくつかのジャンルの雑誌を選び、「並列・添加」の接続詞の実態調査を行った。

1. 『中央公論』

最初に硬い表現がよく使われている『中央公論』を調べた。本研究は2008年2月号～7月号に載った以下の16記事を選んで「並列・添加」の接続詞の使用を調べた。各号の特集を調べようとしたが、本稿の対象外として扱っている対談やインタビューの形で特集されたものもあるため、各号から2～4記事を取り上げた。選んだ記事は「並列・添加」の接続がよく現れているものである。

「再び不動産価格は暴落とし、低迷政治が日本を潰す」 (2008.2)

「ルポ●全入時代の「学力欠落学生」対策 最高学府をバカだらけにしないために」 (2008.2)

「まだ終りは見えない二〇〇八年、連鎖する信用不安」 (2008.2)

- 「危機後の世界で覇権を握るのは誰か」 (2008.2)
- 「療養病床23万床削減の舞台裏 このままでは医療・介護難民が発生する」 (2008.3)
- 「中国バブルの崩壊は始まったのか」 (2008.3)
- 「高学歴でも連絡する一フリーター博士に出口はあるか」 (2008.4)
- 「『ネットカフェ難民』急増の構図「貧困ビジネス」が弱者を食い物にする」 (2008.4)
- 「バイオエタノールで自動車を走らせるべきではない」 (2008.5)
- 「中東の新たな政治力学と日本外交 イラク戦争五周年と米大統領選挙の風景」 (2008.5)
- 「教師への厳しいまなざしは教育を改善できるのか」 (2008.5)
- 「日本が食料を買えなくなる日」 (2008.6)
- 「生物にとって「食べる」とはどういうことなのか」 (2008.6)
- 「『外国人参政権持望論』の幻 なぜ帰化は在日のタブーとなったのか」 (2008.6)
- 「温暖化への挑戦こそが日本と世界を元気にする」 (2008.7)
- 「『幻想の環境問題』が文化を壊している」 (2008.7)

使われている「並列・添加」の接続詞は以下のとおりである。

表8 『中央公論』に現れた接続詞とその頻度

	頻度
そして	51
また	42
さらに	37
さらには	10
しかも	17
そのうえ	4

	頻度
かつ	3
その後	3
次に	2
最後に	2
それに加えて	2
それどころか	2
そのうえで	1
おまけに	1
そうして	1
ほかにも	1
次いで	1
それから	1

『中央公論』では18語の「並列・添加」の接続詞がみられる。頻度10以上は「そして」、「また」、「さらに」、「さらには」、「しかも」である。以下は『中央公論』からの例文である。

(41) (省略) とはいえ、「学校が活性化した」と答えた教員は、11%しかいない。「教師同士が切磋琢磨するようになった」「仕事をしない教師が減った」とみる教員もそれぞれ一割にも満たない。多数の教員はこうした見方に否定的である。また、「評価制度がなくても、自主的に力量向上に取り組んできた」と答えた教員が八割におよび、「評価で明らかになった課題を改善する手だてが用意されていない」とみる教員も六割に達する。
(『中央公論』2008.5, p.158)

(42) そうした中であって、人間だけが例外的に多種多様なものを食べている。それどころか、食物連鎖を組み換え、草食動物である牛を肉食動物に変えることまで行っている。(省略) だが、羊の風土病であった「スクレイピー」が肉骨粉を通じて牛に感染し、狂牛病が発生した。

次いでその牛を食べたヒトが感染し、さらには輸血によってヒトからヒトへ感染するなど、大変な事態になった。（『中央公論』2008.6, p.46）

(43) しかし、その後の天然ガスと原油の価格が異常に高騰する中、エネルギー輸出に関わる部分だけに富が形成され、そこに関与している人たちが突出して豊かになっていった。そして、ロシアの真ん中のところは、依然として、農民も、それから工業生産に携わる者も、展望につながらないままだ。（『中央公論』2008.2, p.125）

(44) このため、一時はやる気を出した担い手農家がすっかりやる気を失ってしまっている。大変に残念なことだ。そのうえ、昨年は米価も下がり、自給率はとうとう四割を切った。（『中央公論』2008.6, p.33）

(45) 計算すると、仮眠を挟んでざっと三〇時間くらい連続で働いていることになる。しかも、翌朝の講義は一限目のため起床は午前七時なのだという。A氏は三十代前半だが、既に体力的には限界を感じる日々だという。（『中央公論』2008.4, p.93）

(46) だから、体にとって不要なものは極力入れないようにする、というところから始めなければいけない。その上でできるだけコストを下げようとするなら、変なものを入れるという行為に関しては、ある程度の抑制が働くはずだ。（『中央公論』2008.6, p.44）

2. 『THE BIG ISSUE』

『中央公論』の次に、『THE BIG ISSUE』という雑誌を調べた。以下『THE BIG ISSUE』を『TBI』と呼ぶ。『TBI』はホームレスの人のために仕事をつくるという刊行の趣旨をもつ雑誌であるが、読者に社会に対する意識をもたせるた

め、様々なテーマを特集している。『TBI』で取り上げられる問題は、例えば、若者を取り巻く雇用状況、メンタルヘルス、依存症、自殺など切実な問題である。また、幅広い年齢の読者が想定されている。『中央公論』と比べると、より身近な問題が取り上げられ、また、より幅広い年齢の人が対象にされているため、より読みやすい表現が使われている。『中央公論』と『TBI』には「並列・添加」の接続詞のバリエーションや使用頻度などに差異がみられるのではないかと考えられる。

以下は各号の特集とその結果である。

生きるに値する人生—ようこそ児童・YA文学の世界へ	(105号 2008.10.15)
森、未来をつくる人々	(106号 2008.11.1)
畑と暮らす—畑つきアパート&週末小屋の畑暮らし	(107号 2008.11.15)
忘れられない贈り物	(108号 2008.12.1)
モノ減らす、ゆとり生活	(109号 2008.12.15)
一人の人間は無力か? ヒト、クマ、森、生命の水の物語	(110号 2009.1.1)
チョコレートの秘密	(112号 2009.2.1)
野宿問題はなくせる	(113号 2009.2.15)
道に迷ったら虫に聞け	(114号 2009.3.1)

表9 『TBI』に現れた「並列・添加」の接続詞

「特集」		「読者・相談」	
	頻度		頻度
そして	38	そして	9
また	35	また	5
さらに	14	それから	3
その後	6	それに	2
しかも	5	さらに	1
最後に	2	しかも	1
それに	2	おまけに	1
かつ	1		
および	1		
さらには	1		
それも	1		
と同時に	1		

本稿は『TBI』の「特集」の記事と、「読者のオピニオン」と「ホームレス人生相談」のコラムを取り上げ、9冊調べた。「特集」の記事と、「読者のオピニオン」・「ホームレス人生相談」のコラムを分けて調べた理由は、「特集」の記事と、「読者のオピニオン」「ホームレス人生相談」のコラムの表現の仕方が異なるからである。「特集」ではフォーマルな書き方が使われるのに対し、「読者のオピニオン」と「ホームレス人生相談」では「～です・ます形」などくだけた文体が使われている。つまり叙事文、報告文、説明文など発話者が特定できない客観的な書き方と、感想文、意見文など発話者が特定される主観的な書き方が両方あるので、「並列・添加」の文体による差異が見られるのではないかと考えられる。(以下、「読者のオピニオン」と「ホームレス人生相談」を合わせて「読者・相談」と呼ぶ)。

以下は『TBI』と『中央公論』との比較である。表10で分かるように、『TBI』は『中央公論』より接続詞の頻度とバリエーションが少ない。特に、意見文、感想文など主観的な書き方が使われている「読者・相談」では「接続詞」の使用が

表10 3つのジャンルに現れた「並列・添加」の接続詞

	『中央公論』	『TBI』の「特集」	『TBI』の「読者・相談」
そして	51	38	9
また	42	35	5
さらに	37	18	1
さらには	10	1	－
しかも	17	5	1
そのうえ	4	－	－
かつ	3	1	－
その後	3	6	－
次に	2	－	－
最後に	2	2	－
それに加えて	2	－	－
それどころか	2	－	－
そのうえで	1	－	－
おまけに	1	－	1
そうして	1	1	－
それに	－	2	2
および	－	1	－
ほかにも	1	－	－
次いで	1	－	－
それから	1	－	3
それも	－	1	－
と同時に	－	1	－

非常に少ない。また、どちらも頻度の高い上位2語が「そして」と「また」である。

下記は『TBI』で見られた例文である。

「特集」

(47) 八杉佳穂さん（国立民族学博物館教授）によると、チョコレート

はメソアメリカ（現在のメキシコ及び中米）の地で、古くから飲料として飲まれていたのだという。（『THE BIG ISSUE』112号, p.12）

(48) アパートに畑がついているのは、そのためだ。しかも、畑と台所は玄関の土間を通してつながっている。台所から、畑の野菜の生育状況が一目でわかり、それを見て献立も考えられる。（省略）

また、畑と台所が連動することで、食物の循環が生まれる。一年中温暖な東京では、冬でも小松菜などを栽培できる。（省略）

さらに、自身のブログを通じ、畑仕事に関心がある人を募集し、エコアパートの畑でワークショップを開催。

（『THE BIG ISSUE』107号, p.15）

(49) その後、実際に学校で授業に取り組む教師、家庭や地域で子どもに伝える親、それぞれの活動の場で生かそうとしている大人たち、そしてなによりうれしいのは参加してくれた子どもたちが「友達にも話してるよ」と言ってくれること。

さらに、第3回セミナーが、3月1日（日）に大阪で開催される。

（『THE BIG ISSUE』113号, p.15）

(50) 先進諸国では個人の森林所有者をサポートする専門組織があり、所有者に林業の知識がなくても木材販売による収入を得られ、かつ、森林が適切に管理されるシステムを構築している。

（『THE BIG ISSUE』106号, p.20）

(51) この空き缶を集めるために「6時間かけて歩いて、ポリ袋2つで14キロぐらい」。1キロ60円だと、1日で840円。それも毎日回収できるわけではない。いかに過酷な状況で野宿生活者たちが働いて生きてい

るか、生徒たちにも「現実」が伝わる。

(『THE BIG ISSUE』113号, p.15)

「読者・相談」

(52) 「病は気から」といいますが、私は季節の変わり目に風邪をひきやすく、何度もぶり返します (おまけに鼻炎もち)。

(『THE BIG ISSUE』114号, p.26)

(53) もともと僕は内気で、言葉が喉まで出かかっても声をかけるタイミングをつかむのが苦手。それに借金の問題もあって、だんだん頭の中が不安でいっぱいになってきた。

(『THE BIG ISSUE』109号, p.28)

(54) いろんな人に誘ってもらったから、ようやく重い腰をあげられたんです。自分もそうですが、この人が相手に打ち明けられないのは、重たがられたら悪いな、とかの思いやりからくるんだと思います。それから自分は、相手と一緒にどーんと重くなっちゃうと困るので、少し聞き流したりしています。

(『THE BIG ISSUE』108号, p.29)

(55) 初の単行本、出版おめでとうございます。そしてありがとうございます。はじめに雑誌で出た時、永久保存版だと思い、複数購入して大事にしておりましたが、装丁はかわいいし、ハンディだし、気に入ってすぐさま購入。

(『THE BIG ISSUE』113号, p.26)

3. 『週刊金曜日』

『TBI』の「読者・相談」からインフォーマルな場面における「並列・添加」の接続詞の使用傾向が分かるが、その量はまだ不十分である。感想文、意見文な

ど発話者が特定される主観的な書き方によく使われる接続詞を調べるため、『週刊金曜日』の「投書」コラムを通して、調査を行った。2008年1月から12月にかけて、各月の第一週目を全て、合計12冊調べた。以下『週刊金曜日』を『週刊金』と呼ぶ。

その結果は下記のとおりである。

表 11 『週刊金曜日』の「投書」の接続詞

	頻度
また	13
そして	9
さらに	4
および	3
しかも	2
それに	1
それに加えて	1
それどころか	1
そればかりか	1
そのあと	1
次に	1
続いて	1

表 12 『TBI』の「読者・相談」の接続詞

(頻度の高い順)

『TBI』の「読者・相談」
そして
また
それから
それに
さらに
しかも
おまけに

『週刊金』の「投書」には当時話題になっていることや社会、経済の問題などに対する読者の意見と感想が書かれている。『TBI』の「読者・相談」より硬い表現が多く使われている。また、『TBI』の「読者・相談」より「並列・添加」の接続詞のバリエーションが多い。また、『週刊金』の「投書」の頻度の高い上位5語は硬い表現によく使われる接続詞であるのに対して、『TBI』の「読者・相談」は話しことばによく使われる「それから」と「それに」が上位5語の中に入っている。

以下は『週刊金』の「投書」の例文である。

(56) (省略) 受験勉強が入試に合格するためだけになり、大学で学ぶ基礎学力を広く勉強することになっていないのだ。それに加えて、カリキュラムを予備校の専門家に見てもらって受験向きに改めた高校もあるという。
(『週刊金曜日』2008.12.5, p.62)

(57) 続いて、11月24日号、『世界が見た池田大作』の書評、さらに08年10月25日号、『世界市民 池田大作』の書評と続く。そのたびに、抗議のことばを出すか、効果がないようである。
(『週刊金曜日』2008.11.7, p.62)

(58) 戦争は「備えある国」と「備えある国」との間に起こるものです。ですからわが国は軍備増強政策ではなく、近隣諸国から「好かれ、信頼され、感謝され、そして尊敬される国」になるために努力するべきだと思います。決して他国から「嫌われ、警戒され、憎まれ、そして、うらまれる国」になってはならないと思います。
(『週刊金曜日』2008.4.4, p.63)

(59) にもかかわらず、JR西日本はこのことを何ひとつ行っていない。そればかりかまっ先に経営責任を明確にしなければならない井手氏が、いまだに日本相撲協会の横綱審議委員会の委員に名をつらねていることは、事故の犠牲者のご遺族の心情を冒とくすることです。
(『週刊金曜日』2008.10.3, p.62)

(60) 要は、ボランティア自身の情報収集は「他人のお金」をあてにせず自分自身への投資も「授業料」と考えて出かけること、また窓口に

おいては「怠慢行為」と思わせるような説明の手抜き、およびほかのボランティアグループなどの情報提供をしないなど、不信感を持たせることは今後一切やめるべきです。 (『週刊金曜日』2008.7.4, p.63)

4. 『現代化学』(2008)

安藤(2002)の文系論文による接続詞の調査をみると、頻度の高い「並列・添加」の接続詞は「また」、「そして」、「さらに」、「および」、「しかも」の順である。文系論文と違い、理科系の雑誌にはどのような接続詞が用いられるかを調べるため、理科系の雑誌の代表として、『現代化学』を調べた。2008年1月号～10月号の「解説」のコラムを調べ、その結果は以下のとおりである。

表 13 『現代化学』に現れた接続詞

	頻度
また	70
さらに	43
および	38
そして	12
その後	7
その後に	2
この後	1
つぎに	3
しかも	2
かつ	2
ならびに	2
さらには	1
このほかにも	1
その直後	1

他のジャンルと比べると、『現代化学』では「そして」の使用頻度が少ない。事柄を対等に列挙する用法がよく見られるが、継起的に起こる出来事を接続する

ときは「そして」の他に、「その後」や「つぎに」などがよく用いられる。また、「および」の使用頻度が非常に多い。

以下は『現代化学』の例文である。

(61) この方法は、拡張性がよいため、分子、錯体、水素結合系、およびクラスターなどの広範囲の動的現象の解明に適用が可能である。また、基底状態に限らず、励起状態、およびポテンシャルが交差する系でのホッピングもアブイニシオ計算のレベルを選ぶことにより可能である。さらに、半経験的分子軌道法や汎関数密度法を用いることにより、カーボンナノチューブ中のイオンの移動、および金属が関与する酵素反応にも拡張できるであろう。(『現代化学』2008.1, p.25)

(62) イオン化後、 H_2O (I) から H_2O (II) へプロトン移動が起きる(第一プロトン移動)。その後、 H_3O^+ (II) から H_2O (III) へのプロトン移動が起き(第二プロトン移動)、その直後、OHラジカルが脱離する。(『現代化学』2008.1, p.21)

(63) この認識部位のパラジウム錯体は、PANIのキノンジイミン部位の窒素原子とのみ相互作用し、向かい合った認識部位間でPANIを挟み込んだ構造体を形成する(図5)。そして、このAligner4とエメラルジン塩基型のPANIを溶液中にて混合した結果、アロステリックな分子認識挙動が確認された。(『現代化学』2008.1, p.50)

(64) 界面活性剤ミセルならびに適切な分子構造をもつ多環式芳香族分子、さらにDNAやRNAなどの生体分子は、SWNTを溶媒に可溶化できることを紹介した。(『現代化学』2008.5, p.43)

(65) このフルカラー発光印刷は、「繊細（精密印刷）」かつ「大迫力（超大型）」の彩色絵画を再現できる新しい印刷技術である。

（『現代化学』2008.4, p.25）

また、「そして興味深いことに」や「さらに興味深いことに」などの表現が見られる。

(66) 一方、このポリマーは主鎖に鉄イオンを含むために電気生活性である。サイクリックボルタンメトリーで測定した酸化還元電位は0.77 V vs. Ag/Ag⁺であり、これは鉄イオンの2価と3価の間の酸化還元に基づくものである。そして興味深いことに、透明電極酸化インジウムスズ（ITO）上に作製したこのポリマーフィルムに、電解質を含むアセトニトリル溶液中で2Vの電圧を印加すると、この紫色のフィルムが透明に変化する現象を見いだした（エレクトロクロミック変化、図3）。

（『現代化学』2008.8, p.51）

5. 『栄養と料理』（2008）

最後に『栄養と料理』という雑誌を調べた。『栄養と料理』は「食と健康」を一貫してテーマとしている雑誌である。各号の「特集」では健康管理や様々な料理の作り方の紹介が載せられている。料理を紹介する際の表現や料理の作り方にはどのような接続詞が用いられているかについて調べる必要があると考えた。各号の「特集」のテーマは以下のとおりである。

- 2月号 脳卒中で倒れないために高血圧に気をつけよう
- 3月号 骨、強くしたい！
- 4月号 脂肪肝が増えている 肝臓に油断するな！
- 5月号 忙しくても手作りしたい！時間節約クッキング

- 6月号 自分も地球もスリムに 台所からダイエット
 7月号 この夏こそ「やせ力」をつける
 8月号 猛暑から身を守る
 9月号 ある日、突然倒れないために脳梗塞を防ぐ！
 10月号 口からつくる健康ライフ
 11月号 止まらない、糖尿病予備群と患者1870万人

『栄養と料理』2008年2月号～11月号を調べた結果は以下のとおりである。

表 14 『栄養と料理』に現れた接続詞

	頻度
また	62
さらに	25
そして	17
さらには	2
しかも	2
それから	2
その後	2
次に	1
その上	1
加えて	1
ほかにも	1

『栄養と料理』における接続詞の多くは「特集」の健康管理の紹介の部分に現れている。料理の説明や料理の作り方の説明では殆ど見られない。書きことばによく用いられる「また」、「さらに」、「そして」が頻度の高い上位3語である。

以下は『栄養と料理』で見られた例である。

- (67) 脳梗塞の危険度が高い人は、動脈硬化が進んでいる人——上にあ

げた危険因子のある人です。特に50歳以上でこれらが当てはまる人は危険度が高くなります。また、因子が複数当てはまる人も特に注意が必要です。さらに、これらの因子のほか、運動不足や過度の飲酒も動脈硬化を促進して脳梗塞を引き起こす原因になります。

(『栄養と料理』9月号, p.16)

(68) (省略) 献血のたびに貧血と診断されていました。そこで、適量の肉や魚もとるようにしました。

また、以前体調をくずして以来やめてしまった運動を、再開するきっかけになりました。記入したいがためにテレビを消し、毎日ジョギングへ。手帳に運動の適量も載っていたのが心強かったですね。

そして、1か月後は体重が2kg減。体がまってウエストのくびれがしっかりできました。さらに貧血も解消。なにより、このとき身についた食事バランスは家族の食事作りにも役立っています。

(『栄養と料理』7月号, p.16)

(69) 気象庁の発表によれば今年の夏もどうやら暑くなりそうです。もともと蒸し暑くて過ごしにくい高温多湿の日本の夏。その上さらに気温が上がれば、体には大きな負担がかかり、熱中症やさらには脳梗塞の引き金にもなりかねません。

(『栄養と料理』8月号, p.7)

(70) おにぎり1個には、だいたい100g(168 kcal)のごはんが使用されています。ごはん茶わん1膳分は、約150g(252 kcal)ですので、2個食べると、約1.5膳分(336 kcal)にもなってしまいます。ほかにも、のり巻きには70～100g、お弁当には160～250g、どんぶりには250～280gほどのごはんが使用されています。ごはんの量を意識して選ぶことを心がけましょう。

(『栄養と料理』10月号, p.32)

料理の説明文ではより短く、より分かりやすい表現が使用されているため、今回の調査では接続詞の使用が見られなかった。以下は「また」が使用されている例であるが、接続詞ではなく、副詞として使用されている。

(71) 焼きれんこんとブロッコリーのゆずマヨかけ

グリルで焼くことで、ゆでるのはまた違った菌ごたえに。

(『栄養と料理』9月号, p.37)

また、料理の作り方は箇条書きにされているため、順序を示す「そして」、「それから」、「次に」などの使用の必要がないと考えられる。「さらに」の使用がよく見られるが、それは接続詞ではなく、副詞として使用されている。以下はその例である。

(72) 油を熱したフライパンに菜の花を並べ、塩をふって強火で2分焼く。焼き色がついたら裏返し、さらに2分焼き、こしょうをふる。

(『栄養と料理』4月号, p.42)

(73) きくらはげは水でもどして石づきを切り除き、食べやすく切る。れんこんは半月切りにし、にんじんは2～3cm長さに切り、さらに縦に薄切りにする。

(『栄養と料理』3月号, p.27)

料理の作り方の説明のページで「並列・添加」の接続詞の使用がみられるのは以下の例のみである。

(74) 温かいうちでも、冷やしてもおいしく食べられる。そのままパスタソースとして使ってもよい。また、フードプロセッサーにかけてな

めらかにし、牛乳を加えて温めればポタージュにもなる。

(『栄養と料理』7月号, p.27)

IV. まとめ

表15は各ジャンルに現れる接続詞を頻度の高い順にまとめたものである。

表 15 各ジャンルに現れた接続詞（頻度順）

『中央公論』	『TBI』の特集	『TBI』の 「読者・相談」	『週刊金』	『現代化学』	『栄養と料理』
そして	そして	そして	また	また	また
また	また	また	そして	さらに	さらに
さらに	さらに	それから	さらに	および	そして
さらには	その後	それに	および	そして	さらには
しかも	しかも	さらに	しかも	その後	しかも
そのうえ	最後に	しかも	それに	その後	それから
かつ	それに	おまけに	それに加えて	この後	その後
その後	かつ		それどころか	つぎに	次に
次に	および		そればかりか	しかも	その上
最後に	さらには		そのあと	かつ	加えて
それに加えて	それも		次に	ならびに	ほかにも
それどころか	と同時に		続いて	さらには	
そのうえで				このほかにも	
おまけに				その直後	
そうして					
ほかにも					
次いで					
それから					

表15を見ると、『TBI』の「読者・相談」と『現代化学』を除いて、全てのジャンルで「また」、「そして」、「さらに」が頻度の高い上位3語の中に入っている。つまり、「また」、「そして」、「さらに」は硬い表現によく用いられると考え

られる。また、「しかも」もよく書きことばに用いられることが分かった。『現代化学』だけは「および」の使用が目立っている。

また、『TBI』の「読者・相談」と『週刊金』によれば、「また」と「そして」は改まった場面だけではなく、意見文や感想文などのインフォーマルな場面にもよく用いられている。

硬い表現がよく用いられる『中央公論』と『現代化学』については、幅広い題目が載せられている『中央公論』の方が『現代化学』より語彙のバリエーションが多く見られる。一方、『現代化学』は継起的に出来事を並べる表現のバリエーションが見られる。また、同じ硬い表現がよく用いられるジャンルであるが、『現代化学』の方が「および」の使用頻度が高い。

安藤（2002）の文系論文による接続詞の調査をみると、頻度の高い「並列・添加」の接続詞は順に「また」（526件）、「そして」（148件）、「さらに」（132件）、「および」（38件）である。一方、文系論文と異なり、理科系の『現代化学』では、「また」（70件）、「さらに」（43件）、「および」（38件）、「そして」（12件）の順である。いずれも「また」が最も多く用いられている。文系論文では、「そして」と「さらに」の頻度差はあまり見られないが、「および」と比較するとその頻度は4倍である。それに対して、『現代化学』では、「また」、「さらに」「および」の頻度差があまり見られない。理科系の雑誌では「および」がよく用いられることが分かった。

今回の調査で一番硬い表現が用いられているのは『中央公論』と『現代化学』である。一方、一番話しことばに近い表現が用いられているのは『TBI』の「読者・相談」である。調査によれば、一番接続詞のバリエーションが多い『中央公論』に対して、一番接続詞のバリエーションが少ないのは『TBI』の「読者・相談」である。要するに、硬い表現、あるいは、改まった場面では、接続詞がよく用いられるため、語彙のバリエーションが見られるが、くだけた場面やインフォーマルな場面では、あまり使われないため、語彙のバリエーションも少ないと考えられる。特に、『栄養と料理』の料理の説明文は、その料理のキャッチフ

レーズのようなものであるため、短く分かりやすい文章が書かれている。そのため、接続詞の使用の必要がないと考えられる。

「それから」と「それに」は話しことばによく使われる接続詞であるが、『現代化学』を除いて、全てのジャンルに現れている。特に話しことばに近い『TBI』の「読者・相談」によく現れている。また、『中央公論』でも、少ないながら最後の事柄を列挙したりする用法の「それから」が見られる。要するに、改まった場面に使わない「それから」と「それに」のような話しことばによく用いられる接続詞でも意見文や感想文など主観的な書き方やインフォーマルな場面ならば書きことばにも用いられると考えられる。

注

- (1) 「側」の漢字の方が自然であるが、佐治（1970）が「文の内がわの接続詞」と「文の外がわの接続詞」と呼んでいるため、原点のままに記す。
- (2) 佐治（1970）の接続詞の分類の表で「しかのみならず」が記載されている。

参考文献

- 安藤淑子（2002）「上級レベルの作文指導における接続詞の扱いについて一文系論文に用いられる接続詞語彙調査を通して一」『日本語教育』115号 日本語教育学会 pp.81-89
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2005）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 石黒圭（2005）「序列を表す接続語と順序性の有無」『日本語教育』125号 日本語教育学会 pp.47-56
- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 梅林博人（2002）「名詞を列叙する「そして」について」『相模女子大学紀要A 人文・社会系』相模女子大学 pp.1-7
- 小川芳男他（1982）『日本語教育事典 縮刷版』大修館書店
- 木村尅巳・山田信一（2003）『すぐに使える実践日本語シリーズ13 語や文のつなぎ役接続詞（初・中・上）』専門教育出版
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 国際交流基金（1989）『基礎日本語学習辞典』
- 佐久間まゆみ（1991）「接続表現の文脈展開機能」『日本女子大学紀要文学部』41号 pp.9-

- 佐治圭三（1970）「接続詞の分類」『月刊文法』 pp.28-39
- 社団法人日本語教育学会編（1982）『日本語教育事典』国際交流基金・日本万国博覧会記念協会 大修館書店
- 小学館国語辞典編集部（1982）『日本国語大辞典』小学館
- 新村出（1976）『広辞苑』岩波書店
- 飛田良文他（2007）『日本語学研究事典』明治書院
- 田中章夫（1984）「接続詞の諸問題」鈴木一彦/林巨樹編『研究資料日本文法 4 修飾句独立句編』明治書院
- 中田敏夫（1989）「国語教科書接続詞にみる男女差」『金沢大学語学・文学研究』 pp.6-17
- 水谷修他（2005）『新版日本語教育事典』日本語教育学会
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川出版
- 森田良行（1986）『基礎日本語2—意味と使い方』角川書店
- 森山卓郎（2006）「「添加」「累加」の接続詞の機能—「そして」「それから」などをめぐって—」
- 『日本語文法の新地平3 複文・談話編』くろしお出版
- 吉田則夫（1987）「国語教科書の接続語」『日本語学』9月号 Vol6 明治書院 pp.95-103

参考資料

- 『中央公論』（2008）東京：雄松堂
- 『THE BIG ISSUE』ビッグイシュー日本
- 『週刊金曜日』（2008）金曜日
- 『現代化学』（2008）東京化学同人
- 『栄養と料理』（2008）女子栄養大学

“Parallel” and “Additive” Conjunctive Expressions in Different Text Types: Focusing on Various Magazines

CHONGPENSUKLERT, Tassawan

This research concerns the “parallel” and “additive” conjunctives of the Japanese language. Given that “parallel” and “additive” conjunctives such as “soshite”, “mata”, “sarani”, “sonoue”, share the same function, it does not imply that they can be replaced one another. Japanese native speakers choose these expressions relating to the meaning they want to express, and its context, in which conjunctive is introduced. Apparently, the style of writing and speaking as well plays an important role for the word selection.

Even though, Japanese conjunctive expressions are used in writing, the numbers of using the conjunctives are different according to text types and the styles of the writing. For instance, based on the survey of the number of using the conjunctives, “oyobi” are often used in newspaper articles while “soshite” are often used in academic papers and essays.

There are many kinds of writing i.e., narrative writing, objective writing, subjective writing, explanatory writing style. This paper observed the number of using the “parallel” and “additive” conjunctives in different style of writing through various magazines. As the fact that magazines are published for a group of specific readers, hence their styles of writing are different.

As the result, “mata”, “soshite”, “sarani” are often used in formal writing style. It however, showed that in scientific essays, the number of using word “oyobi” is noticeable. Although “mata” and “soshite” are often used in formal

writing style, they are also often found in informal writing style, such as in correspondence columns.

The articles in “*Chuokoron*” and scientific essays are an example of formal writing style but they are different in the variety of the conjunctives. The variety of the conjunctives which contain the meaning of “parallel” and “additive” are remarkably used in “*Chuokoron*” while the variety of the conjunctives which have the meaning of succession are obviously used in scientific essays.

The difference in the variety of the conjunctives is noticeable by the writing styles: formal, and informal. It seemed that the more formal the text is, the more various conjunctives are used. According to the observation, the number of the expressions in formal style is more than the number of the expression in informal style. This showed that formal writing style requires conjunctives while it is not substantial to informal writing style.